

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471400380
法人名	社会福祉法人 静友会
事業所名	バーデンライフ山北
訪問調査日	平成21年1月30日
評価確定日	平成21年2月24日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 2月 5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1471400380号
法人名	社会福祉法人 静友会
事業所名	バーデンライフ山北
所在地	足柄上郡山北町山北202 (電話) 0465-79-1112

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年2月24日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 25日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	8人	常勤 3人	非常勤 5人	常勤換算 6.2人

### (2) 建物概要

建物構造	(木造枠組壁工法)造り
	2 階建ての 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	43,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 1,100 円			

### (4) 利用者の概要 (12月25日 現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1		名	要介護2		3 名	
要介護3		2 名	要介護4		4 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	83 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人恵風会おおり医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

西丹沢を仰ぐ中川温泉を下ったJR御殿場線の山北駅より徒歩10分の所にあります。駅前の建物はレトロ感覚がよみがえり、町内を走るボンネットバスが街並みにマッチしています。バーデンライフ山北は地元に着した高齢者支援事業を展開している社会福祉法人静友会が運営するグループホームです。施設長は地元消防団員でかつ町の福祉計画策定委員をやっており、地域に着した姿勢を前面に打ち出しています。中でも「バーデン祭」と称して地域一体となって芸能やボランティア交流の催しが実施され、好評を喫しています。入居者家族の満足度は高く、さらなる発展が期待されます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) フロアーの出入り口の施錠については見守りを強化することで鍵をかけない介護が実践されています。研修については外部研修への参加や部内研修が開催されていますが、今後は計画的に実施されることが期待されます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全員がそれぞれ自己評価をし、評価結果について職員会議で話し合いの場をもって改善に取り組んでいます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 外部評価の結果の改善取り組み状況や年間事業の報告がなされてます。またホームの行事に参加していただき、利用者との交流も深めています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 事業所のサービスに対するご家族の満足度は高く、苦情については第三者委員に直接連絡できる体制になっており、入り口に連絡先の掲示がされています。また、ホームの行事に参加していただいた際に意見を聞いたりしています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のお祭り、盆踊りなどの自治会行事には積極的に参加し、交流を深めています。また、地域の幼稚園や小・中学校生徒の福祉体験の受け入れなど地域に着した展開を図っています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げ、地域に密着した季節ごとの交流により、入居者の自己実現が支援されています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念は入口に掲示しており、月に一度の職員会議では理念を念頭に入れた上で個々の展開を図っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加や地域の方の受け入れでは、幼稚園や小・中学校の福祉体験の受け入れなど積極的になされています。また、ホームの広報誌は家族の他、自治会や地域の金融機関など住民の集まる所に配布しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員は職員会議で評価の意義を話し合い、理解した上で改善に取り組んでいます。服薬管理など前回評価からの改善が見られます。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、グループホームの行事(バーデン祭、敬老会、クリスマス会)のときに見学も兼ねて実施しています。		通常的生活風景や期間中の出来事や集計データなどを委員に報告したり、地域の理解と意見や支援をいただいたりすることで更に充実した会議になることが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの入退居数などの実績報告を月に一回しています。施設長は山北町の高齢福祉に関わる委員会の委員を委嘱されておりさまざまな形で質の向上に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各職員が担当して「グループホーム通信」を定期的(月に一回)に発信しています。入居者の様子やかかった費用の明細、行事案内など写真を添えて近況報告がされています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の満足度は高く、また苦情に関する「第三者委員会」の案内や連絡先が入口に掲示されています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員の異動や離職がある場合、後任の職員には3日～7日の研修期間を設け、入居者や職務に慣れながら引継ぐように配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員には7日程度の研修期間を設けています。外部研修は案内を回覧し自由参加または必要に応じて参加を促がしています。		モチベーションの維持及びスキルアップのための研修の年間計画を立て、外部及び内部研修を計画的に進められることが期待されます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	足柄上郡(1市5町)の認知症高齢者のための日帰りキャンプに2名の入居者が参加されています。これをきっかけに他のグループホームとの交流が始まり、互いに質の向上が図られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご本人の体験利用や家族に長時間滞在していただく等、ご本人がスムーズに馴染んでもらえるように、家族と相談しながら進めています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として敬い、できることはなるべくご自身でやってもらい、対話の中での共感や新たな発見など、保有している能力を引き出しつつ支えることで支え合いの関係を築いています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>暮らし方の希望や意向については、入居前にご家族から話をうかがうほか、関係者から情報を得て、把握に努めています。入居者本人の表情や言葉から思いを汲み取り、帰宅願望の強い方には、安心感を持ってもらえるよう山を見に行ったり、自然に触れたりして対応しています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常の関わり合いの中で、入居者本人やご家族の意見をうかがい、介護計画に反映するように心がけています。また、各入居者を担当する職員が日々の観察で得た情報を職員間で共有するほか、月1回職員会議で話し合いをもって、介護計画の作成を行っています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>現状に即した計画作成の必要性を意識し、カンファレンスを開いての対応が図られていますが、介護計画における総合的な支援のあり方を見直しにまでは至っていません。</p>		<p>家族や入居者の希望や意向が、その時々で大きく変わるということはないと思われませんが、総合的な支援方法は3ヶ月、6ヶ月、1年と変わってくると思われま。安定してみえる入居者の場合でも、新鮮な目で日常を観察し、得られた情報や気づきを活かし、変化のきざしに予防的に対応していく介護計画も期待されます。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者への柔軟な支援を常に心がけています。入居者・ご家族の状況に合わせて、協力病院以外の受診等にも、職員が付き添い、対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人、ご家族の希望を受けて、入居前からのかかりつけ医での受診ができるよう支援しています。ご家族と協力して通院介助を行なうとともに、受診がスムーズにいこう、本人の状態についてご家族やかかりつけ医との連絡を密にしています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、カンファレンス等で検討し、ご家族や医療機関と話し合って判断しています。併設している特養への入所も選択肢にはあり、本人・ご家族が納得できる方針を検討しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に不快な思いをさせることがないように、トイレ誘導時には、さりげない言葉掛けと支援を心がけています。職員会議では日々の関わり方について常に話し合いを持ち、入居者の人格を尊重した言葉遣いの実践を、全員で行っています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日のスケジュールは決められていますが、入居者がその日にしたいことを把握して、できるだけ柔軟に対応しています。竹の子や梅など、野山が気になる人には、職員以外の事務員について行ってもらったりして、本人が望んでいるペースでの支援を心がけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや希望を取り入れながら、職員が交代で献立を作成しています。畑で作った野菜を食材に加えたり、スーパーのチラシを見ながら入居者と献立を相談したりして、食事が楽しみになるよう工夫しています。また、職員も全員同じものを食べ、一緒に会話を楽しみながら、食事をとっています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴について基本は決めてありますが、その日の気分や体調などによって、時間帯等を変更し、希望どおりの対応を心がけています。また、唯一、職員が1対1になって接する時間であることから、入居者との信頼関係を築く大切な時間として捉えています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの入居者のできる範囲で、洗濯物をたたんでもらったり、食器を拭いてもらったりしています。以前はお願いしていた畑の手入れが困難になってしまった方には、収穫の際に声かけをしています。また、地域の各種行事や施設内の催し時には職員も一緒になって、楽しんでもらえるよう心がけています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者本人が散歩や買い物希望する場合には職員が同行して支援するほか、日常の食材購入等の際に声を掛け、一緒に出かけていってお菓子を買ったりしています。季節によってはドライブがてら桜を見たりして、自然にふれあう機会をつくっています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が自らのうちで常に点呼を心がけることで、入居者への目が行き届くよう配慮し、施設内のすべての箇所に鍵を掛けない取り組みを行っています。以前は、安全面からホールの入り口だけは施錠していましたが、今はご家族もあいさつをしながら、自然な感じで入ってこられるようになってきています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者とともに避難訓練をおこなっており、うち1回は夜間を想定しています。地域に開かれた施設を目指すなか、職員には地域の自治会員や消防団員もいて、日ごろから地域の人々に働きかけ、災害時の協力体制を整えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況はチェック表に記入し、職員が把握しています。また、水分確保は画一的におこなうのではなく、一人ひとりの様子を見ながら時間をずらしたり、お茶を飲まない際にはスポーツ飲料で対応したりして、柔軟に支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間であるリビングのテーブルに季節の花を置くなど入居者の気持ちが和むように配慮しています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等を置かないことで安全面に配慮しています。また、収納スペースが一帖分確保されています。		入居者の意向を確認しながら、それぞれに馴染みのものを置いたり、写真を貼ったりしながら、安全な居室空間である事に加え、居心地のよい空間づくりができる事が期待されます。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	バーデンライフ山北
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県足柄上郡山北町
記入者名 (管理者)	佐藤 博美
記入日	平成 20年 12月 25日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の見慣れた場所を散歩し、地域の人々と出会う機会を作っています。地域で行うお祭りやどんど焼き等のイベントや幼稚園・保育園児、小・中学校生徒との交流会等に積極的に参加しています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>交替勤務で全員が揃うことがないため、職員会議を月1回開催し、理念・運営方針等々を話し合う機会をもうけ、共有・実践に努めています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域の中で暮らす姿を中心にした広報紙を発行し、家族、自治会、民生委員、隣接医院、金融機関等に配布するほか、主要行事に家族や近隣住民を招待して理解が得られるように努めています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩中等において、旧知の人も多く、気軽に声をかけてもらったり、ホームのお祭り(バーデン祭)には自治会に回覧を回していただき参加いただくよう働きかけています。また、知り合いの面会など自由にいつでも訪問いただけるようにしています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域のお祭り、盆踊り大会等の自治会の行事に積極的に参加し、交流を深めています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当ホームは、居宅介護支援、デイサービスセンターを併設しているので、それらの事業活動を通して地域の方の相談等に応じており、その中でグループホーム職員も認知症に関する事項等の相談・支援に取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価表を配布し、評価すると共に、評価結果については職員会議で話し合い、全員で具体的な改善に取り組むようにしています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、年間の事業報告並びに評価結果への取り組み状況等の報告をしているほか、ホームの行事と一緒に参加していただき、意見を頂いています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度「実績報告書」を提出するために、役場担当者を訪問し、口頭で近況報告をするほか、町とは様々な形で連携を保っています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については、認知症介護実践者研修等の研修を受け、職員会議でその報告を行う等をしてはいますが、現在の入居者には、それらを必要とする方はいませんので、現在のところでは特に活用する機会はありません。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、機会あるごとに職員間で話し合い、防止に努めています。複数職員による相互の監視や、虐待にいたるプロセスの早期発見・解決方法のカンファレンス等を行うようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時の契約についての重要事項の説明はもちろんのこと、退居の解約については、その理由等を十分に説明し、納得のいく退居先を確保してから解約をするようにしており、家族等が不安にならないように努めています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者と職員は、日頃の対話を通して、意見・不満等を聴くように努めています。また、家族等のほか、「お話ボランティア」等の外部の方と積極的に接触していただき、不満等を言える機会を設けています。その結果については、記録に残し職員会議で報告して運営に活かしています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>担当職員からの「グループホーム通信」を定期的に発送しています。その他、ほとんどのご家族がひと月に1回以上の面会がありますので、その際にも日頃の生活状況を伝えていきます。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族等には、できる限りホームに来ていただく機会を設け、ご意見や不満を聴く機会としています。また、ホームの玄関の「重要事項」の掲示に苦情受付機関先や第三者委員の連絡先を掲載しています。行事案内のはがきに意見欄を設けていますが、現在までのところ特に苦情等はありません。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議を月1回開催し、意見や提案を促しているほか、常に聞く体制をとり、その意見等については、幹部職員による「連絡調整会議」で施設長と協議し、業務に反映できるようにしています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の要望等に対する職員体制としては、いつでも対応できるよう管理者、介護職員のほか、事務職員を含めホーム全体で勤務調整しています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に異動は行わないこととし、離職希望者に対しては、遺留に努めています。また、新職員には、研修期間を長く取り、利用者に時間をかけて慣れていただくようにしています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、関係機関からの研修通知を回覧し、自由参加又は業務命令により参加するようにしていますが、研修場所が横浜等の遠隔地が多いために勤務体制への影響が大きくなかなか参加しにくい状況です。OJTは随時行っており、新採用職員は7日程度の研修期間を設けています。	段階別年間計画を作成して研修に取り組みたいです。
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会の研修会に出席したり、行政機関が主催した認知症高齢者のためのキャンプへの参加や近隣同業者ホームへ訪問し、意見交換を行うなどして、他ホームの良いところを吸収するように努めています。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員には、常日頃から悩み事等については相談をするように促しています。また、職員会議や個人面談を実施して相談をしやすい体制をとっています。また、時には親睦の飲み会を開催しストレス発散の場所を作っています。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員会議、個人面談等で職員個々の努力や実績に対する評価を伝え足り、感謝・激励すると共に向上心の大切さを確認し合い、働き甲斐のある職場になるよう努めています。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時はもちろんのこと、利用直前に本人、家族、ケアマネ、ホーム職員で面談を行い、本人の心身の状況、生活環境の把握と共に本人自身からの訴えを聞く様に努めています。また、その結果を職員会議等で話し合い、その方について全職員が情報を共有し、受け止めることが出来るようにしています。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族等の意向把握については、前項目の面談と同時に、また必要がある場合はさらに別の機会を設けて聴くようにするなど、特に重視して実施しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、必要があればホームに併設している居宅介護支援事業所のケアマネにも立ち合ってもらい、安易に入居を勧めることなく、在宅生活が困難であるのかどうかを見極めると共に、認知症対応型施設での生活についても説明し、今何が最善の支援であるかを検討するなどの対応をしています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当初、お試的な利用をしたり、ご家族等にホームに長時間滞在していただく等、本人に合わせ自然にホームの生活に馴染んでいけるように家族と相談しながら進めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中に変化を設けるようにして、共通話題づくりに努め、それを大切にしてお話の中で共感したり、新たな発見をしたり、学びあい、人生の大先輩として尊敬の念をもって接するようにしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、「グループホーム通信」を発送し近況報告を行うほか、かなり頻りに面会に来て頂いているので、一緒に過ごす時間が持っています。また、主なホームの行事にはご家族を招待し、食事やゲームを共にするなど、ご家族と一緒に本人を支える関係ができています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	前項目と同様に「グループホーム通信」で近況報告を行い、ご本人の心身の状況を知っていただいた上で面会に来ていただいています。また、主な行事にはご家族と入居者の会食会や一緒にゲームを楽しみ、本人と家族の良い関係が保てるように努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的には、ご家族に委ねていますが、入居者のご近所の方の面会の受け入れや、馴染みの場所や独居であった方の自宅への外出の援助をしています。また、入居者の知人の葬儀の会葬をしたい等の際の支援もしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係把握には、業務日誌や日頃の業務の中で情報を交換して全職員が共通認識をもち利用者同士が良い関係がたもてるよう心がけています。利用者同士の会話は、見守りながら利用者の良い関係が保たれるような援助をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後においても、特養ホームに入居された方は面会に行ったり、本人や家族から相談や希望がある場合は積極的に対応するようにしています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望、意向については、常々その把握に努め、日々の生活は本人の意思を尊重するよう努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴等については、本人や家族に聴き、全職員が共有するようにして、これまでの馴染みの暮らし方から急激な変化が生じないように注意をしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のケアの基礎であり、その日の会話、動作、食事の摂取量等々から職員一人ひとりが把握・記録に努めると共に、朝夕の職員の引継ぎで申し送りをしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成においては、入居者本人やご家族の意見を聴き、また、各入居者を担当する介護職員が日々の状況を観察した事柄についてを基にしてケアマネと他の職種の職員が協働して作成するようにしています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しはもちろんのこと、現状に即した計画作成の必要性を意識し、関係者で話し合い変化に対応していますが、現在は定期以外での計画見直しをする入居者はおりません。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有には力を入れており、個別記録はもちろんのこと、朝夕の日勤者と夜勤者の引継ぎで日々の様子等を報告し、入居者の心身の状況を共有するようにしています。又、大きな変化についてはカンファレンスで検討して計画・実践の見直しに生かすようにしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスセンターとの交流や、同一法人内施設との交流や温泉浴を実施しています。また、家族の状況等によっては、協力病院以外の受診等の要望にも応じています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在までのところ、警察との連携の必要性はありませんでしたが、それ以外の機関とは、何らかの繋がりを持って、協力を頂いています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人やご家族等の希望があれば他のサービス利用も支援していく用意はありますが、現在のところ特に希望や必要性は認められていません。ただし、併設のデイサービスセンターにおいて週1回程度、デイサービス利用者と交流の機会を設けています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	前項目と同様にご希望や必要性があれば協働できるよう支援してまいります。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療については、協力医療機関と連携し、定期的なホームへの訪問診療等も行っていますが、本人、ご家族等の希望により、かかりつけ医への受診がスムーズに行うことが出来るよう支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する受診先を決定する場合は、家族と相談、協力して行っているほか、その受診先とは必ず連携を保つようにして、いつでも相談等ができる体制をとっています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設のデイサービスセンター所属の看護職員に週1回のバイタルチェック等の日常の健康管理を行っているほか、24時間相談できる体制を取っています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医院がホームの隣接地にあり、そこに入院したときは、職員がほぼ毎日通って、看護師等に様子を聞くようにしており、情報交換、相談は密にしています。また、協力医院以外の病院に入院した場合は、家族と連携して病院と連絡を取るようし情報入手に努めています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、ホームの性格上、まず、カンファレンスで共同生活が可能かどうかを検討し、その結論を家族と医療機関と話し合って判断することになりますが、本人や家族が納得できる方針を探して対応しています。		終末期のあり方として、ホームにおける「看取り」については、今後の懸案事項になっており、具体的に検討する必要があると思っています。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化したときに、ホームのハード・ソフトを含め対応できるかどうかのカンファレンスを行い、利用者本位の立場になっての支援や医療機関又は特養等の他の福祉施設への転居等を含め、チームとしての支援が出来るようにしています。		終末期のあり方として、ホームにおける「看取り」については、今後の懸案事項になっており、具体的に検討する必要があると思っています。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えについては、特に家族等と十分に話し合ってから実行すると共に、その後についても必要な支援を行うようにして、ダメージを最小限にするよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人格を尊重する言葉使いをするように常々職員間で話し合い実践するように努めています。又、個人情報の取り扱いについては、関係機関内だけで必要最小限にとどめるよう管理の徹底に努めています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者の中には、自らの意思や希望を表明することについての意思疎通が難しい方もいられますが、最大限引き出せるようにしています。また、職員の説明も時間をかけて納得した上で穏やかに行動できるように努めています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度の一日のスケジュールは決めてありますが、本人の希望を最大限に取り入れ、一つ一つ行動については、本人の意思を確認し、ご自分の意思で行動できるように支援しています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>日々の室内外の服装等は、可能な限り本人の意思を尊重しながら整えています。また、理美容はホームでお願いしているボランティアの美容師さんが本人の好む髪型にしていますが、強制はしていませんので、外部の店に行っている方もいます。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの好みや希望を聴きながらメニューに取り入れています。また、食事の準備はできる範囲で下ごしらえなどをし、後片付けは茶碗を洗ったり、拭いたりしていただくようにしています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品については、家族の要望や医師の意見等により一人ひとりの状況で多少の制限はしていますが、本人の希望があれば自由に楽しめるようにしています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介護の立場からは、リハパン使用が望ましい方であっても、本人が拒否をする場合は、その方の意思を尊重し、排泄パターンに合わせた誘導で対応していますが、まだ十分ではなく、失禁してしまう場合があります。		一人ひとりの排泄パターンや習慣を完全に把握することは、プライバシーの尊重と相反することもあり、難しい面もありますが、個人のプライドを傷つけないような誘導を行うなどして気持ちよく排泄できるようにして行きます。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の基本は決めてありますが、何日に入浴したいかについては希望に沿うようにしています。希望の時間については、入浴の介助が不要の方でない限り現状では難しいと思います。		入居者に希望通りの入浴を楽しんでいただけるようにしていきたいです。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床時間、休息、睡眠等については、全て本人の自由意志に基づいて行われています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設内での役割等については、出来る限り役割を持って生活していただけるように支援しています。又、楽しみごとや気晴らしになることはできる限り本人の希望に沿って支援するように努めています。		一人ひとりの楽しみごとや気晴らしになることは、各人様々で、自己表現できない方が多い中では、その把握、実行が完全に出来ているとはいえない面があり、日頃の様子観察から各人が喜びがあり穏やかな生活が出来るように支援していきたいと思います。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望に応じて小額のお金は所持しています。買い物等には職員が同行して使えるようにしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望による散歩や買い物は、職員が同行してできる限り戸外に出かけられる支援をしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームの年間行事として、普段いけない場所へ花見や紅葉狩り、イルミネーション等の見学に行っています。個別の希望については、買物等できる範囲で支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、いつでも本人の希望に応じています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	全ての訪問者について、いつでも応じています。又、来訪者と居心地よく会話等が楽しめるよう、リビングや居室を使い分けるようにしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営基準は理解していますし、人権の尊重に反する身体拘束はいたしていません。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中における全ての箇所の鍵をかけないように取り組んでいます。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーや本人の意向によりみだりに居室に入らないようにしながら、利用者の状態把握や安全確認には最大限の配慮をしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	キッチンや浴室等の共用スペースについては、危険な物品は全て職員の管理下においていますが、個室については、その人の状況によって判断しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止については、常に職員間で話し合い防止に努めています。ヒヤリハット等の記録をとり、職員会議で再発防止の検討をするなど全職員で取り組み、業務に活かせるようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内部研修として、人工蘇生、吸引、酸素ポンペの使用訓練を単発的に行ったり、急変や事故発生時のマニュアルを作成し、職員間で共有しています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っています。そのうち1回は夜間を想定して行っており、昼夜を問わず起こりうる災害に備えています。又、職員の中には地域自治会員がいますし、地域の消防団員もいますので、日頃から地域の人々の協力が得られるよう働きかけています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	心身状態の変化がある等、必要がある都度、ご家族に説明し、ご本人には抑圧感のない生活をしていただけるよう理解を得ています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員一人ひとりが細やかに声掛けをして、常に体調変化に気付けるようにしています。又、日勤者から夜勤者への申し送り時には、情報の伝達をしっかりと行い、夜勤中の体調変化への対応や連絡体制を確認しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬の説明書をファイルしてあり、必ず複数の職員で確認しながら服薬の援助をしています。又、服薬後の様子観察を怠らないようにしています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事のメニューや水分補給で便秘予防をすると共に、散歩や体操等を行っています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアをすると共に、夜間に義歯の消毒を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態等一人ひとりに合った食生活を大切に、野菜を多く摂っていただくよう工夫しています。また、食事・水分の摂取量をチェックしながら入居者に応じた支援に努めています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を家族の承諾の下で行ったり、キッチン用品を中心に衛生管理チェックを怠らないようにしています。また、予防や対策については、マニュアルを作成し、全職員が必要に応じて目を通すようにしています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理は、チェック表を作成して日々管理しています。食材についても安全管理には十分配慮しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物全体の雰囲気も親しみ易い外観となっており、玄関は職員が毎日掃除をし、ボランティアの方が活けてくれる「活け花」がいつもきれいに飾られています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現状においては不快な音や光はありません。食堂等の共用空間には常に季節の花や飾りを置くようにしています。また、楽しかったホームの行事の際の写真をイラストを描いて貼るなどの工夫をしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビングには畳スペースも設えられているほか、テーブル、ソファが適度に配置されていますので、思い思いに自由に過ごせるようになっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に配置する家具、レイアウト等は本人や家族の好みや考えによって自由に配置していただいています。居室は畳が敷いてありますが、ベッドの持ち込みも自由です。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気扇を使用しており、1日1回以上窓を開けて換気をしています。又、ホーム内の各所に温湿度計を取り付けて、冷暖房装置の温湿度調節をしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や廊下の幅、トイレの広さ等々に十分配慮しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の生活ペースに合わせ、できるだけ自立した暮らしができるようにケアしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにテーブルやベンチ・パラソルを配置し、自由に休憩等をするスペースがあり、裏庭には畑がありますので種を植えたり収穫したりしています。また、外で焼き芋やソーメン流しや花火等を行い楽しんでいます。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・併設のデイサービスセンターは天然温泉の大浴室がありますので、月に1回以上、温泉浴を楽しんでいただいています。
- ・ホームの裏庭に小さな畑があり、職員と一緒に季節の野菜作りをして、無農薬の新鮮野菜を食卓に並べて楽しく食しています。
- ・季節感を味わうために、初詣、観梅や観桜、紫陽花の見学、紅葉狩り、クリスマスイルミネーションの見学等を行っています。
- ・地域や世代間交流のために、幼稚園、保育園の園児、小・中学校生徒との交流会や、地域のお祭りやどんど焼きに参加しています。
- ・家族と協働で介護することをモットーに、ご家族に「グループホーム通信」や広報紙「ぽかぽか温泉」を送付したり、事あるごとに電話連絡をしてホームでの状況をお知らせすると共に、ご家族をご招待して敬老会やクリスマス会等をホーム内で開催し、ボランティアや職員のアトラクションで楽しんでいただいています。